



創業の精神 志野に

バローHD依頼、鈴木藏さん制作

バローホールディングスは3日、同社の社是「創造」「先取」「挑戦」に合わせて人間国宝の陶芸家鈴木藏さん(88)と多治見市虎渓山町が制作した作品3点を、可児市大森奥洞の人材開発センター「嫩葉舎」に設置した。

(箕浦由美子)

可児市の人材開発拠点に設置

作品は同社が鈴木さんに依頼。新作の「先取」は高さ53センチ、幅65センチ、奥行き55センチで、切り立った崖を合わせたような形状の志野のオブジェ。緋色や白色が帯やジグザクの塗り分けで交錯し、大自然のようなスケールの大きさを感じさせる。多治見市大針町への本部

移転(1996年)時の「挑戦」、嫩葉舎完成(2019年)時の「創造」に続く、志野のオブジェ3部作となり、そろって嫩葉舎に常設展示される。

記者会見で田代正美会長兼CEOは「創業の精神をいかに渡すかが難しく、言葉だけでない重さが必要。作品を見ながら考えてほしい」と述べた。鈴木さんは「志野は他に類を見ない日本独特のもの」としてデフォルメして目に見えないものを表現する特徴に触れ、「こだわりのない自由な境地」を求めたと説明。夕日に照らされた岩や川、海を抽象化したとした。

新作の「先取」を囲む鈴木藏さん(左)と田代正美会長兼CEO。可児市大森奥洞、嫩葉舎